

多文化共生社会を目指して

～学びでつながる多文化交流 学びの場～

2016年7月16日

いちかわTMOアドバンス 佐藤和江

1. 多文化共生社会とは・・・

- ・ 多様な価値観を持つ人が一緒に活動できる
- ・ お互いの違いを認め学んだことを生きる力にできる
- ・ 地域で、より安全に自由に自立して生きていける

そのような人材育てとその支援をする場づくり

2. 多文化共生社会に取り組むきっかけ

- ・ 海外転勤族の夫とともに文化環境の著しく異なるロサンゼルス5年、ボストン1年、サウジアラビア2年、在住した。
- ・ 選択権のない主婦としての立場から、文化の変化にいやおうなく対応せざるを得なかった。逆の立場の在市川外国人の困難に共感。
- ・ 一方で、ロサンゼルスで知った年間1ドル講座の体験。
- ・ これまでの転勤の末、たどり着いた市川を終の棲家として地域に貢献したい。〈フィリピンの男の子のエピソード〉
- ・ これまでの経験、知恵、持ち味を活かすためTMO講座に参加。

3. 私の自己紹介と経歴

- 千葉県香取郡（多古米で知られる）農家の長女
自然、地域に見守られのびのび育つ！
- 元教員 小学校、中学校で主に英語を教える。
七中で外国人向日本語学級（レインボウ）に従事
- 山女（七大陸の最高峰を狙っていました！）
- 発達障害支援に従事
- 市川市国際交流協会メンバー

4. 市川市では何をやりたいか

■多文化共生社会の推進のために

- 1) 食文化、シェフ先生プロジェクト（私もアシスタントで！）
- 2) 国際理解教育の促進（文化・歴史・生活習慣・国民性...）

■公民館、地域センターを多文化交流の拠点とする

- ・市川市の活性化を目指す

■若者の力を活用

- ・市内外の大学、高校、留学生、在住外国人との連携

5. 具体的な進め方

WHO (対象) 小学生、外国人

WHEN 週末、長期休暇

WHERE 公民館、地域センター、公園

WHAT 学習支援(宿題) 日本の遊び・文化、
防災(ネパールの男の子のエピソード)
図書館活動、TMO修了生との連携(放課後会)

6. 進めるにあたっての課題

1. 支援の対象となる人々へのアプローチ
2. 関わっていききたい人、団体

市川市国際交流協会
市川駅南口図書館
地域ミニコミ誌
千葉商科大、和洋女子大

3. 支援を行う場所とリソース

7. 多文化共生都市市川プロジェクトへ

将来、世界を背負って立つ子供たちが楽しみながら、その国、地域、本来の正しい文化、歴史、生活習慣、国民性を理解して（自国と比べることで）日本の文化、生活習慣などを再発見・再認識
⇒ 日本の良さを世界に発信できる人材育成支援につなげていきたい